

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社ドワンゴ
【英訳名】	DWANGO Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 荒木 隆司
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号 （平成25年7月16日から本店所在地 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号が上記のように移転しております。）
【電話番号】	（03）3549-6300（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレート本部長 小松 百合弥
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号
【電話番号】	（03）3549-6300（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレート本部長 小松 百合弥
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期連結 累計期間	第17期 第3四半期連結 累計期間	第16期
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成24年 6月30日	自平成24年 10月1日 至平成25年 6月30日	自平成23年 10月1日 至平成24年 9月30日
売上高(千円)	26,916,785	26,555,345	36,243,875
経常利益(千円)	698,919	2,004,768	1,284,814
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失()(千円)	220,394	1,997,617	506,387
四半期包括利益又は包括利益(千円)	359,460	2,439,056	534,690
純資産額(千円)	18,436,054	20,277,704	18,260,824
総資産額(千円)	27,038,966	26,278,505	24,653,007
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失金額()(円)	1,103.64	9,791.81	2,522.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	68.0	77.0	73.9
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,779,100	2,808,700	3,335,445
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	2,366,306	1,507,069	2,138,013
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	10,596	647,072	2,036,509
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高(千円)	6,420,218	6,813,884	6,159,325

回次	第16期 第3四半期連結 会計期間	第17期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()(円)	3,457.32	2,715.17

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

<ポータル事業>

当社の連結子会社であった株式会社スマイルエッジ（旧株式会社スカイスクレイパー）は保有株式の売却により持分比率が低下したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

<ゲーム事業>

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社ティーアンドイーソフトは当社の連結子会社である株式会社スパイク・チュンソフトを存続会社とした吸収合併により消滅をしたため、連結の範囲から除外しております。

<その他事業>

第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社モバイルコンテンツは清算したため、連結の範囲から除外しております。

なお、第2四半期連結会計期間において、その他の関係会社に該当していたエイベックス・グループ・ホールディングス株式会社は、保有する当社株式の一部を売却したことにより、その他の関係会社ではなくなりました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年10月1日～平成25年6月30日）における我が国経済は、新政権による経済政策や日本銀行による金融緩和政策などにより、円安・株高が進み消費マインドや企業収益に改善の動きが見られるなど、景気回復への明るい兆しが見え始めております。

当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）を取り巻く環境は、スマートフォンの普及が進み、様々なタブレット端末が発売され、通信機能を備えたデバイスの進化と多様化が進んでおります。それに伴い、新たなアプリやサービスが次々と登場し、スマートフォン関連の市場は拡大しております。

さらに、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、動画配信サービス、電子書籍などの利用も拡大しております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、ネットワークを通じた新しいコミュニケーション手段を提供すべく、ネットワークエンタテインメントサービス・コンテンツを携帯電話、スマートフォン、PC、家庭用ゲームソフト市場などで事業展開してまいりました。

事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。

ポータル事業においては、ニコニコ生放送で、4月27日、28日に幕張メッセで開催された「ニコニコ超会議2」にネットから509万人のユーザが視聴しました。また、地上波メディアとの連携を強化したドラマの先行試写会やポカロイド歌謡祭、バラエティ番組などを放送しました。さらに、昨年11月に開催したネット初の衆議院選挙の党首討論会に続き、ニコファーレを会場に参院選では全てのメディアを通じて初となる党首討論会を開催しました。その他にも、5人の現役プロ棋士と5つの最強コンピュータ将棋ソフトが闘う、将棋戦「第2回将棋電王戦」を開催し、累計視聴者が230万人を超え大きな盛り上がりを見せた他、ニコニコ生放送ならではの多様な番組を放送しました。

これらの取り組みにより、平成25年6月末には登録会員数3,468万人、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は200万人となりました。

収益面では、「プレミアム会員」が順調に増加しており売上に貢献しています。

以上の結果、ポータル事業の売上高は117億3百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント利益（営業利益）は18億39百万円（前年同期比150.2%増）となりました。

モバイル事業においては、スマートフォンで高音質楽曲配信サービス「dwango.jp」に、最新シングルの独占先行配信だけでなく、niconicoの人気ポカロ楽曲など当サービスならではの楽曲を充実させ、サービス拡充に取り組みました。

また、これまでよりスマートフォン会員獲得のための広告宣伝費を絞り込んだことにより、会員数は微減となりました。

従来の携帯電話端末向けには、引き続き主力となる音楽系サイトの着うた®や着うたフル®を中心にユーザ満足度向上に努めました。しかしながら、スマートフォンへの移行の影響を受け、会員数は減少しました。

以上の結果、モバイル事業の売上高は102億53百万円（前年同期比5.2%減）、セグメント利益（営業利益）は13億73百万円（前年同期比28.2%減）となりました。

ゲーム事業においては、海外タイトルの国内版「テラリア」を発売し好調に推移しました。また、引き続き前期に発売した「スーパーダンガンロンパ2 さよなら絶望学園」のリピートオーダーが売上及び利益に貢献しました。しかしながら、パッケージソフトの大型ブランドタイトル数が前年同期に比べ少なかったことにより売上が減少しました。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は27億23百万円（前年同期比36.7%減）、セグメント利益（営業利益）は2億6百万円（前年同期比43.8%減）となりました。

ライブ事業においては、4月27日、28日に幕張メッセで「ニコニコ超会議2」を開催し、延べ10万3千人の方が来場しました。ライブハウス「ニコファーレ」では、参院選では全てのメディアを通じて初となる党首討論会を開催した他、niconico関連のイベントやコンサート、ゲーム系イベントなどを開催した他、各種イベント向けにホールの貸出なども行いました。

以上の結果、ライブ事業の売上高は10億8百万円（前年同期比72.1%増）、セグメント損失（営業損失）は3億1百万円（前年同期は8億18百万円の損失）となりました。

その他事業においては、主にアニメ分野やniconicoから生まれたコンテンツのCDやDVDなどの音楽出版及び著作権利用料収入が売上に貢献しました。

以上の結果、その他事業の売上高は13億63百万円（前年同期比30.0%減）、セグメント損失（営業損失）は2億70百万円（前年同期は2億61百万円の損失）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高265億55百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益18億82百万円（前年同期比155.7%増）、経常利益20億4百万円（前年同期比186.8%増）、四半期純利益は19億97百万円（前年同期は2億20百万円の損失）となりました。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ6億54百万円増加し、68億13百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加などにより、前第3四半期連結累計期間と比べ10億29百万円増加し、28億8百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前第3四半期連結累計期間と比べ8億59百万円支出が減少し、15億7百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入の減少などにより、前第3四半期連結累計期間と比べ、6億57百万円支出が増加し、6億47百万円の支出となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

（4）研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は246百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（5）従業員数

連結会社の状況

当第3四半期連結累計期間において、連結会社の従業員数の著しい増減はありません。

提出会社の状況

当第3四半期累計期間において、当社は平成25年1月1日付で株式会社ドワンゴコンテンツ（旧株式会社CELL）を承継会社とするポータル事業及びライブ事業の一部を会社分割しました。これに伴い、従業員数が115名減少しております。

なお、従業員数は就業人員数（当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。）であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	528,000
計	528,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	204,052	204,052	東京証券取引所 市場第一部	(注)
計	204,052	204,052	-	-

(注) 当社は単元株制度は採用していません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	204,052	-	10,616,302	-	3,166,825

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 43	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 204,009	204,009	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	204,052	-	-
総株主の議決権	-	204,009	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の中には、証券保管振替機構名義の失念株が2株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （％）
株式会社ドワンゴ	東京都中央区銀座 四丁目12番15号	43	-	43	0.02
計	-	43	-	43	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年10月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,164,325	6,818,884
受取手形及び売掛金	6,333,152	6,160,133
商品及び製品	31,753	85,077
仕掛品	555,839	830,103
原材料及び貯蔵品	1,968	8,114
その他	1,676,096	2,021,778
貸倒引当金	8,752	-
流動資産合計	14,754,383	15,924,091
固定資産		
有形固定資産	2,048,774	1,690,550
無形固定資産		
のれん	1,045,392	841,793
ソフトウェア	2,009,144	1,845,332
その他	28,654	11,608
無形固定資産合計	3,083,191	2,698,734
投資その他の資産		
投資有価証券	3,723,579	4,483,976
その他	1,241,230	1,702,854
貸倒引当金	198,152	221,702
投資その他の資産合計	4,766,657	5,965,129
固定資産合計	9,898,623	10,354,414
資産合計	24,653,007	26,278,505
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,920,634	1,740,965
短期借入金	206,416	-
未払法人税等	351,049	157,293
賞与引当金	526,837	377,397
ポイント引当金	30,812	68,251
資産除去債務	-	118,269
その他	2,967,716	3,065,898
流動負債合計	6,003,466	5,528,075
固定負債		
長期借入金	28,354	-
資産除去債務	315,174	197,865
その他	45,188	274,860
固定負債合計	388,716	472,725
負債合計	6,392,182	6,000,801

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,616,302	10,616,302
資本剰余金	9,497,345	9,076,827
利益剰余金	1,893,765	116,351
自己株式	5,636	5,636
株主資本合計	18,214,245	19,803,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,726	434,413
為替換算調整勘定	1,101	1,683
その他の包括利益累計額合計	3,625	436,097
少数株主持分	42,954	37,762
純資産合計	18,260,824	20,277,704
負債純資産合計	24,653,007	26,278,505

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 3 四半期連結累計期間 】

(単位 : 千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年10月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年10月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
売上高	26,916,785	26,555,345
売上原価	16,721,574	14,995,410
売上総利益	10,195,210	11,559,934
販売費及び一般管理費	9,458,827	9,677,073
営業利益	736,383	1,882,861
営業外収益		
受取利息	3,246	1,792
受取配当金	27,700	36,100
持分法による投資利益	36,390	6,295
業務受託料	-	11,432
保険返戻金	-	12,223
投資事業組合運用益	-	24,339
その他	48,684	32,441
営業外収益合計	116,021	124,627
営業外費用		
支払利息	7,258	2,297
貸倒引当金繰入額	125,167	-
投資事業組合運用損	11,831	-
その他	9,226	422
営業外費用合計	153,485	2,719
経常利益	698,919	2,004,768
特別利益		
負ののれん発生益	132,142	-
関係会社株式売却益	2,100	4,476
特別利益合計	134,242	4,476
特別損失		
固定資産除却損	5,001	-
投資有価証券評価損	564,390	-
ゴルフ会員権評価損	-	5,810
事務所移転費用	19,121	-
その他	118	1,200
特別損失合計	588,631	7,010
税金等調整前四半期純利益	244,530	2,002,234
法人税、住民税及び事業税	253,748	275,760
法人税等調整額	116,021	280,076
法人税等合計	369,769	4,315
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 ()	125,238	2,006,550
少数株主利益	95,155	8,932
四半期純利益又は四半期純損失 ()	220,394	1,997,617

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	125,238	2,006,550
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	234,674	429,686
為替換算調整勘定	451	2,818
その他の包括利益合計	234,222	432,505
四半期包括利益	359,460	2,439,056
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	454,622	2,430,089
少数株主に係る四半期包括利益	95,161	8,966

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	244,530	2,002,234
減価償却費	1,235,233	1,575,879
のれん償却額	160,392	203,598
負ののれん発生益	132,142	-
固定資産除却損	5,001	-
賞与引当金の増減額(は減少)	172,328	145,715
貸倒引当金の増減額(は減少)	121,879	15,567
受取利息及び受取配当金	30,946	37,892
支払利息	7,258	2,297
持分法による投資損益(は益)	36,390	6,295
投資事業組合運用損益(は益)	11,831	24,339
投資有価証券評価損益(は益)	564,390	-
ゴルフ会員権評価損	-	5,810
関係会社株式売却損益(は益)	2,100	4,476
売上債権の増減額(は増加)	49,563	46,814
たな卸資産の増減額(は増加)	6,651	332,259
仕入債務の増減額(は減少)	12,463	8,791
未払金の増減額(は減少)	229,533	95,985
その他	201,203	98,701
小計	2,035,388	3,219,101
利息及び配当金の受取額	30,946	57,412
利息の支払額	7,027	2,297
法人税等の支払額	280,205	465,516
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,779,100	2,808,700
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	5,000	-
定期預金の払戻による収入	200,000	-
有形固定資産の取得による支出	1,174,180	426,625
無形固定資産の取得による支出	896,676	613,296
投資有価証券の取得による支出	149,900	37,500
投資有価証券の売却による収入	10,000	50,500
子会社株式の取得による支出	318,394	-
関係会社株式の売却による収入	17,100	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 116,749
貸付けによる支出	11,130	-
貸付金の回収による収入	3,786	136,750
ゴルフ会員権の取得による支出	-	39,731
差入保証金の差入による支出	-	543,217
差入保証金の回収による収入	-	72,137
その他	41,911	10,662
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,366,306	1,507,069

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	1,380,000	685,000
短期借入れによる収入	3,330,000	600,000
長期借入金の返済による支出	136,062	149,770
リース債務の返済による支出	2,976	3,842
自己株式の処分による収入	200	-
自己株式の取得による支出	1,390,989	-
配当金の支払額	409,576	408,460
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,596	647,072
現金及び現金同等物に係る換算差額	804	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	577,412	654,558
現金及び現金同等物の期首残高	6,997,631	6,159,325
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,420,218	6,813,884

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1) 連結の範囲の重要な変更

株式会社スマイルエッジ（旧株式会社スカイスクレイパー）は保有株式の売却により持分比率が低下したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2四半期連結会計期間において、株式会社モバイルコンテンツは清算したため、連結の範囲から除外しております。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社ティードイソフトは当社の連結子会社である株式会社スパイク・チュンソフトを存続会社とした吸収合併により消滅をしたため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

株式会社スマイルエッジ（旧株式会社スカイスクレイパー）は保有株式の売却により持分比率が低下したため、第2四半期連結会計期間より連結の範囲から除外し、持分法適用の範囲に含めております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	6,525,378千円	6,818,884千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	105,160	5,000
現金及び現金同等物	6,420,218	6,813,884

2 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の売却により株式会社スマイルエッジ（旧株式会社スカイスクレイパー）が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに株式会社スマイルエッジ株式の売却価額と売却による支出は次のとおりであります。

流動資産	449,196千円
固定資産	11,509
流動負債	223,356
少数株主持分	104,655
株式売却益	4,476
株式の売却価額	137,170
現金及び現金同等物	253,919
差引：売却による支出	116,749

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日至平成24年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年12月20日 定時株主総会	普通株式	408,104	2,000	平成23年9月30日	平成23年12月21日	資本剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年12月19日 定時株主総会	普通株式	408,018	2,000	平成24年9月30日	平成24年12月20日	資本剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	9,835,308	10,813,928	4,279,040	576,792	25,505,070	1,411,714	26,916,785	-	26,916,785
セグメント間の内部売上高又は振替高	358,715	305	19,904	9,287	388,213	535,731	923,944	923,944	-
計	10,194,024	10,814,234	4,298,945	586,080	25,893,284	1,947,445	27,840,730	923,944	26,916,785
セグメント利益又はセグメント損失()	735,275	1,913,126	366,860	818,937	2,196,324	261,994	1,934,330	1,197,947	736,383

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 1,197,947千円は、セグメント間取引消去221,581千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,419,529千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年10月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ポータル 事業	モバイル 事業	ゲーム事 業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	11,361,857	10,252,760	2,718,150	986,753	25,319,522	1,235,823	26,555,345	-	26,555,345
セグメント間の内部売上高又は振替高	341,546	666	5,188	21,620	369,021	127,442	496,463	496,463	-
計	11,703,403	10,253,427	2,723,339	1,008,373	25,688,543	1,363,265	27,051,809	496,463	26,555,345
セグメント利益又はセグメント損失 ()	1,839,646	1,373,242	206,061	301,681	3,117,268	270,224	2,847,044	964,182	1,882,861

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 964,182千円は、セグメント間取引消去353,704千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,317,887千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

（報告セグメントの利益または損失の測定方法の変更）

当社グループでは事業区分を明確化する組織再編を実施しており、業績管理体制の見直しを行いました。それに伴い、のれん償却額につきまして、前連結会計年度まで各報告セグメントに配賦しておりましたが、第1四半期連結累計期間より「ポータル事業」に配賦する方法に変更しております。

この変更により、従来の方によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の「ポータル事業」のセグメント利益が203,598千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

当社グループでは事業区分を明確化する組織再編を実施しており、業績管理体制の見直しを行いました。それに伴い、のれんにつきまして、前連結会計年度まで「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結累計期間より「ポータル事業」に区分する方法に変更しております。なお、当該事象による「ポータル事業」ののれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては841,793千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり純損失金額()	1,103円64銭	9,791円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	220,394	1,997,617
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	220,394	1,997,617
普通株式の期中平均株式数(株)	199,698	204,009

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月6日

株式会社ドワンゴ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北地 達明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勢志 元 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ドワンゴの平成24年10月1日から平成25年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年10月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ドワンゴ及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。